

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

社会力とは、よかれと思う社会を構想し、それを作り、運営し、その社会をさらにいいものに変えていく力である。とすれば、社会力がなくなった場合、社会はどのような事態を招くことになるのか。

社会学には①社会的凝集力ぎようしゅうりよくと似た用語として社会的凝集性がある。社会学でいう社会的凝集性とは、「集団内の成員を引き止めるべく作用する全体的場の力」のことで、集団がそのメンバーを引きつけ、まとめあげていく魅力といったものを指している。ここでいう社会的凝集力もそれに近いが、集団そのものの魅力というより、成員個々が引きつけ合うことによって全体がまとまっていく側面に重きをおいた言い方である。社会の成員が備えている社会的磁力といってもいい。

会社であれ、組合であれ、政党であれ、学校のクラスであれ、クラブであれ、はたまた趣味のサークルであれ、環境保護のための市民団体であれ、集団がその目的を実現するためには、メンバーになっている人々全員が、所属している集団に対する所属意識が高く、自分がなすべき責務を遂行しようとする意欲が強くなければならないのはいうまでもない。しかし、それだけでは不十分で、集団が長く続き、しかも次第にいい方向に変わっていくためには、メンバー同士が互いに好感をもって、一緒に何かできることに喜びを感じていることが大事なことである。成員がそういう感情をもっていれば、一人ひとりが集団をもっとよくしようと、意欲をもって動くようになるということである。集団がそういう状態にあれば、われわれは集団に社会的凝集力があるということができよう。

このような社会的凝集力の概念は、社会全体にもあてはまる。その社会で生まれ、そこで育ち、今を生きている人々全員が、この社会に生まれてよかったと思い、今こうして生きているのが幸せだと感じているとしたら、社会は、自ずと、全体として、しかるべき機能を十全に果たすことになるろう。

しかし、社会がこのような状態に至るには、社会のメンバーが一定の条件を満たしていなければならない。その条件とは、端的に言えば、社会の成員が互いに他者に関心をもって、社会を成立させている要素を共有していることである。同じ言葉を同じ意味で使い、ある位置を占める者は、自分がどんな役割を果たすよう期待されているかを了解しており、自分が行動する場がどのように意味づけられているかも分かっている、自分が生活している社会がどんな社会であるかについてもイメージを共有している、といったことである。

ところが、わが国の現状をみたとき、こうした条件が著しく損なわれていることを認めざるをえない。人々は互いに無関心の度合いを深めているし、その結果として、社会に対する関心をなくしており、さらには、わが子が使う言葉を親が理解できず、先生のいう言葉の意味が生徒に伝わらず、自分が行動している場所がどんなところに頓着とんちやくせずに振る舞い、周りにいる人がどこで何をしようと「われ関せず」でかかわろうとせず、社会がどんな状態であろうと「好きな人が何とかすれば」といっこうに関心を示さない、といった事態が進行している。同じ社会に住みながら、人々が互いに何のつながりも関心ももたず、自分の利益と関心だけにこだわって生きているとしたら、まず社会がよくなることはありえない。むしろ、社会の崩壊が一気に進むしかない。現在のわが国では、社会の凝集力が極度に落ちているということである。

凝集力の低下は、社会の崩壊を促すだけではない。社会的凝集力の低下は、②人々の生きている充実感も奪っているといっている。なぜなら、人間は、自分の存在価値を他人に認められてこそ、生きる実感をもつことができる生き物だからである。

<中略>

今でさえ、食糧不足や資源不足や環境汚染で窮地に立たされている人類の将来は一体どうなるのだろうか。われわれは、わが国のみならず地球全体を視野におきながら、社会の今後のあり方を根本的に考え直し、社会の改革に取り組まなければならない時に立たされている。こうした時期に、われわれに求められているのは人間や社会への強い関心であり、社会の仕組みを解剖する能力であり、あるべき社会を考えデザインする構想力であり、何よりそうした社会を作り運営していく能力と意欲である。このような能力や構えこそ、社会力というものである。

このような問題意識をもってわが国の現状をみると、大人の世代であれ若者の世代であれ、こうした能力を著しく低下させていると言わざるをえない。当然のことながら、21世紀の社会づくりを担い運営していくのは、今の若者たちであり子どもたちである。間もなく地球上から姿を消す大人世代はともかく、次の時代を担う子どもや若者たちこそ、社会を作りそれを運営していく資質や能力を備えていなければならないはずである。しかし、残念ながら、若い世代の方がいっそう社会力を低下させているのがわが国の現状である。どうジタバタしたところで、これからの社会を担っていくのは今の若者たちであり子どもたちである。その肝心の彼らが、社会への関心がなく社会を運営していく力もないとしたら、社会の将来はどうなるのか。先行きは火を見るより明らかである。

(門脇厚司『子どもの社会力』岩波新書、1999年。なお、原文の一部を変更している。)

【設問 1】

下線①社会的凝集力とは何か。さらに、集団に社会的凝集力があるとはどのような状態を指すのか。両者について、本文の内容にもとづいて説明しなさい。(200字以内)

【設問 2】

下線②人々の生きている充実感が得られるために最低限必要なことは何か。本文の内容にもとづいて説明しなさい。(200字以内)

【設問 3】

著者は社会に対する人々の関心がなくなっていると述べているが、それに対してあなたの考えを具体的に説明しなさい。さらに、あなたは本学でどのようにして社会に対する関心を高め、視野を広げたいかを、明確に述べなさい。ただし、日本社会以外の記述でもよいものとする。(800字以内)